

やくしまに 暮らして

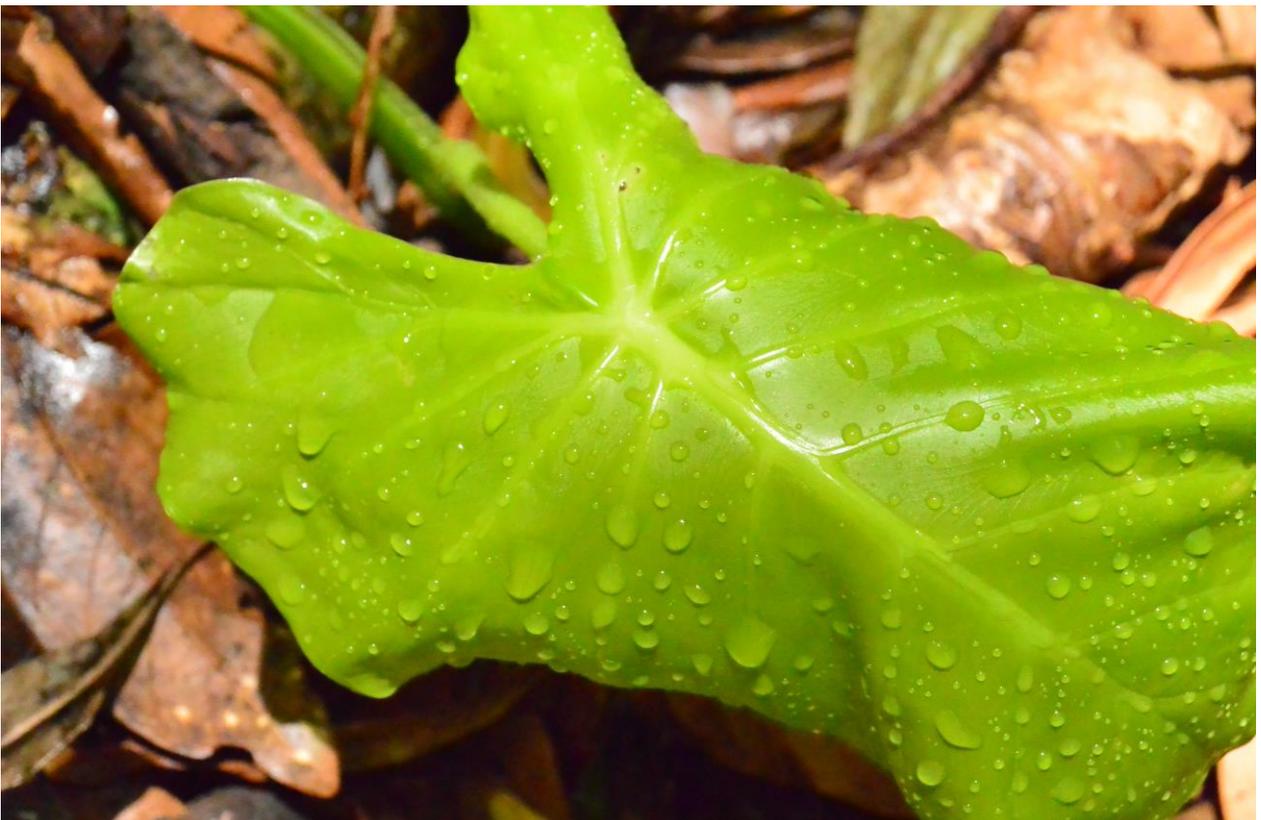
ネイチャーガイド

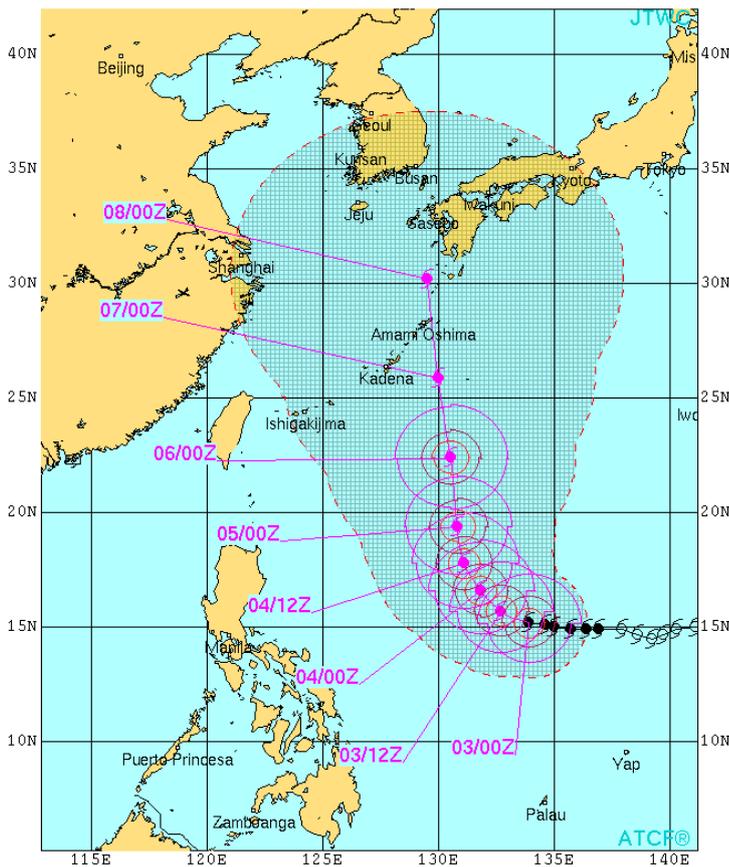
大野 睦

第十七章 天災と人災

■風の進む方向

島で暮らすようになってから、風向きが重要なことだと初めて気付いた。ましてや円錐形のこの島では風向きによって、全く逆の天気になることがある。屋久島を一周すれば、晴れにも雨にも逢える、そう言われる所以はここにあるのだろう。また、台風の時には島の西側を通るのか、東側を通るのか、また島より北上するのか、その全ての違いが、台風通過後にもたらすものを大きく変える。





SUPER TYPHOON 11W (HALONG) WARNING #23
 WTPN31 PGTW 030300
 030000Z POSIT: NEAR 15.2N 133.9E
 MOVING 280 DEGREES TRUE AT 07 KNOTS
 MAXIMUM SIGNIFICANT WAVE HEIGHT: 44 FEET
 03/00Z, WINDS 140 KTS, GUSTS TO 170 KTS
 03/12Z, WINDS 140 KTS, GUSTS TO 170 KTS
 04/00Z, WINDS 135 KTS, GUSTS TO 165 KTS
 04/12Z, WINDS 135 KTS, GUSTS TO 165 KTS
 05/00Z, WINDS 130 KTS, GUSTS TO 160 KTS
 06/00Z, WINDS 120 KTS, GUSTS TO 145 KTS
 07/00Z, WINDS 110 KTS, GUSTS TO 135 KTS
 08/00Z, WINDS 100 KTS, GUSTS TO 125 KTS

CPA TO:	NM	DTG
KADENA_AB	113	07/05Z
CHINHAE	297	08/00Z
IWAKUNI	276	08/00Z
KUNSAN_AB	371	08/00Z
PUSAN	294	08/00Z
SASEBO	174	08/00Z
TAEGU	344	08/00Z

○ LESS THAN 34 KNOTS
 ⊙ 34-63 KNOTS
 ● MORE THAN 63 KNOTS
 PAST 6 HOURLY CYCLONE POSITS IN BLACK
 FORECAST CYCLONE POSITS IN COLOR



■ 自然災害に備える

台風の通り道である屋久島で暮らしていると、台風に備えるための常識が身につく。例えば、台風が直撃でなかったとしても、数日前からフェリーが欠航することがあり、その場合は台風が通過するまでの数日間、荷物や郵便物が届くことはなく、スーパーの棚から食品がどんどん消えてゆく。



最初に牛乳やパンなどの日配品がなくなり、続いて野菜、肉類、と賞味期限の短い順番に店頭から品切れとなっていく。そしてまた強風で何か飛んできて、窓ガラスが割れてしまわないように雨戸を閉め、停電や断水にも備え、ランタンをいつでも使えるように準備し、風呂には水をためておく。水もペットボトルに入れておく。これが、台風が接近しているときの当り前の行動になる。自然災害に慣れるなんてことはないと思うが、備えることに妥協はしない。

そして、台風の暴風域に入る前には帰宅し、早めに風呂に入り、食事の用意もして、備える。停電にならなければ、ゆっくりとDVD鑑賞や、部屋飲みも楽しめるので、その準備も忘れない。そして、暴風域に入ると、例え雨漏りをしても、家からは出ない。暴風域にある状態で、どう確認しても台風が過ぎるまでは修繕不可能だし、そもそも大怪我をするだけ。停電にならなければ幸運で、停電になれば寝る。





■ 自然災害なのか

人災なのか

台風が過ぎると、私はまず自宅から一番近い海岸に向かう。台風の進路と勢力によって、海岸の地形や環境は大きく変わる。

今年の屋久島は予想通りと言われる台風の当たり年のようなのだ。予想通りというのは、植物なり動物なりがその前兆を知らせてくれていたからである。今年は7月に1回、

8月に2回、台風の影響を受けている。結果、土砂崩れや倒木など、いくつかの被害は見られたものの、家屋などの被害や、怪我人などは出ていない。こうしてみると何事もなく無事だったと片付けられるのであるが、屋久島の砂浜にはこの時期、たくさんのウミガメの卵が埋まっており、この卵が台風により流出している。今年も甚大な被害が出た。これは天災なのだろうか。

かつての砂浜には、今よりもっと多くの砂があり、松の木が生え、植物の根が浜を支えてきた。台風が来て、ウミガメの卵がこんなにも流出することはなかったという。開発とともに埋め立て地が増え、そのために沖では海底から砂を運ぶ。山には砂防ダムが作られ、砂浜を形成する土砂が運ばれてこない。どんどん浜はやせていっている。台風は風向きによっては、むしろ砂を運んでくるところもある。本来は、こうして自然に砂が移動していくはずなのだ。高波によってさらわれ、海へと流れたり、砂浜を転がってしまった卵はもう孵ることはない。自然現象によって起きていることではあるが、これは自然災害ではなく、人災なのだ。

大野 睦 BLOG やくしまに暮らして
<http://mutsumi-ohno.seesaa.net/>

